

バイブルスタディ Pastor JD Farag 2018.08.05
エペソ人への手紙 6:5-9 「職場でのクリスチャン」

.....
使徒パウロが聖霊によってエペソの教会に書いています。

エペソ 6章 5節 - 9節

- 5 奴隷たちよ。キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に仕えなさい。
- 6 ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして心から神のみこころを行い、
- 7 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。
- 8 奴隷であっても自由人であっても、良いことを行えば、それぞれ主からその報いを受けることを、あなたがたは知っています。
- 9 主人たちよ。あなたがたも奴隷に対して同じようにしなさい。脅すことはやめなさい。
あなたがたは、彼らの主、またあなたがたの主が天におられ、主は人を差別なさないことを知っているのです。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、今この時、心静めて、あなたに、そして今日与えられているあなたのみことばに集中するために、あなたを必要としています。

主よ、あなたの教会の、あなたの家族を祝福して下さい。

イエス様の御名によって。アーメン

今日、皆さんにお話したいのは「職場でのクリスチャン」についてです。

ここは、みことばの中でも最も大切な箇所の一つで、現在私たちが直面している事と密接に関連してきます。

使徒パウロは前の 5 章で、聖霊に満たされることについて書きましたが、それは今日のテーマの前提として非常に重要なことでした。

なぜなら、全ては、クリスチャンが聖霊に満たされていることを前提としているからです。

それで、パウロはエペソ教会に、今日のみことばのことを強く勧めているのです。

クリスチャンが聖霊に満たされたなら、夫、妻、家族、更には、従業員や雇用者でさえ、このみことばのようになります。

私は神のことばがとても実践的で、正直であることが大好きです。

それは真理。

生きて働く神のことばは応用がきき、私たちの人生の全てに於いて適用できるのです。

先に進む前に、指摘しておきたいことがあります。

パウロがこれを書いた時、ローマ帝国には約 600 万人の奴隷がいたと言われています。

彼らは奴隷制度という観点での奴隷で、人間以下とみなされていました。

その中には新生したクリスチャンもいたので、パウロは、クリスチャンの奴隷が主人のために働くことの問題を扱っているのです。

私これを指摘した理由は、私たちが置かれている状況と密接に関わるからです。

クリスチャンの奴隷が主人に仕えることができるのは、唯一、彼らが聖霊に満たされていること、つまり聖霊のバプテスマを受けている状態にあるからです。

言い換えると、主に対するように、主人に従うことを可能にするのは聖霊だけ。

パウロが書いている通りです。

聖霊の満たしなしには、特に奴隷は、主に対するように、心から主人に仕えるのは不可能です。

私たちは奴隷ではないので、それを理解するなら、従業員や雇用者として、もっと合理的に当然の事として、日々の生活の中で実践することができます。

すなわち、あの時代の奴隷が、聖霊によって、主に対するように主人に仕えることができたのなら、奴隷でない従業員である私たちは、どれほど雇用者に従うことができるだろうということです。

パウロは聖霊の力を受けて、クリスチャンの結婚とクリスチャン家庭について手紙に書いた後、すぐにこのことを扱っているのですが、興味深いことに、これはエペソ書だけでなくコロサイ書にも出てきます。

エペソ書の次がピリピ書、そしてコロサイ書ですよ。

聖霊に満たされていなければ、神が召し、命令しているような、夫や妻、従業員や雇用者になる希望はありません。神がこのことを聖書の正典に含む必要があると考えたことから、その重要性が伺えます。

コロサイ書にあるエペソ書と同じような内容の箇所。

パウロがコロサイ教会に何を書いているか。

コロサイ 3:22-25

22 奴隷たちよ、すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。

人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。

23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。

次がキーワードです。

24 あなたがたは、主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。

あなたがたは主キリストに仕えているのです。

25 不正を行う者は、自分が行った不正を報いとして受け取ることになります。

不公平な扱いはありません。

これは、雇用者と従業員にも当てはまります。

少し大胆に聞こえるかもしれませんが、私は、クリスチャンの霊的成熟度の最も良い指針は、どんな雇用者や従業員であるかだと思います。

どれだけ熱心な労働者であるか。

仕事に対する心が、人にではなく、主に向いているか。

何をするにも、何に手を付けるにも、全力でやっているか。

これは、神を称えること。

神はそれを高く評価し、報いを与えて下さるのです。

私は牧会を始める前にビジネスを興したので、雇用者かつ従業員という両方の立場を経験しました。

何年もかけて、主は私にいくつかのことを教えてくれましたが、これもその一つです。

その価値あるレッスンは、「私達がこの世と神聖さとを分ける時、間違いを犯す」ということ。

それは、ビジネスの世界では確かな事実ですが、ミニストリーにおいても同様です。

私がビジネスをしていた時、ビジネスは私の伝道活動でした。

ビジネスと伝道活動には区別も隔たりもなく、日曜日はクリスチャンで、月曜日にはビジネスに戻って全く別人になる、というのではありませんでした。

毎週火曜日はビジネスを休みにして、担当の働きをするために教会へ行き、事実、私は役員でしたし、牧師が留守の時には、私が代役を務めることもありました。

火曜日は完全にビジネスは閉じて、主に仕えることに集中しました。

なぜなら、ビジネスは私の伝道活動であり、伝道活動は私のビジネスだったからです。

すると面白い事に、神が本当に高く評価して下さり、水曜日にはいつも買い手から電話が入りました。

「昨日（火曜日）あなたに電話しようとしたんだけど、忙しかったから今日電話したんだ。」

これは主が働かれたんだ、と分かっていました。

主は私の献身を喜び、ビジネスを守って下さったのです。

私がこれを言う時、皆さんが私を誤解しないように願います。

私について知っている方もいると思いますが、私は自動車のディーラーでした。

何年も前に本土にいた頃、長年、車のビジネスに携わり、ワシントン州スポケーンにある自動車協会（AAA）で卸売りと買い付けサービスをしていました。

主に未亡人が対象の、公平な価格で交渉するための買い付けサービスです。

私はそこで、ランチタイムの間にバイブルスタディ（聖書勉強会）を始め、ただ、みことばを教えていました。そうしたら、あらゆる職業の人々が来て、自動車ディーラー業界のバイブルスタディで、ディーラーが皆、キリストに立ち返り始めたのです。

25年以上経った今も、彼らは主と共に歩んでおり、何人かは今日、ミニストリーに関わっています。

私のビジネスは伝道活動でした。

私がこう言うのは、他の理由があつてのことではなく、私たちがこの世と聖なることとを区別しない時に、神がして下さることについて証しするためです。

あなたは、自分の仕事が伝道活動だと知っていますか？

皆さんご存知だと思いますが、イエスが根本的に言っていることは、

まず神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。（マタイ 6:33）

神は、私のビジネスと経済だけでなく、私のミニストリーも同じように祝福して下さいました。

当時、神が私にして下さったことのおかげで今、フルタイムでミニストリーが出来ているのだと思っています。

ところで、フルタイムのミニストリーは厳しいですよ。

これはまさしく人生であり、“フルタイム”の活動でも“パートタイム”活動でもありません。

“フルタイム”（終日、四六時中）の伝道活動です。

あなたが気づいていようがなかろうが、私たちは全員、フルタイムの伝道者。

神があなたをその場所、その仕事に置かれたのは、ミニストリーに行けない人々とあなたが繋がるように、神が特別に配置したということなのです。

自分のビジネスを閉じ、最初の教会を始め、牧師としてミニストリーに関わり出した後、人々の私を見る目が変わったのに気づきました。

実に面白い事に、私は突然、キリスト教の聖職者で霊的指導者（the man of the cloth）です。

まあ、私のシャツは100%コットンですが。

それで、急に信者と聖職者の間に深い溝が築かれてしまいました。

私はそれが大嫌いです。

なぜなら、牧師でなかった時には手が届いていた人々に、突然、それが出来なくなったから。

私がどこに繋げたいか分かりますね？

皆さんは、私が手の届かない人々、職場にいる同僚や上司、雇用者に届くことが出来るのです。

もう少しで、まとめたいと思います。辛抱して下さい。

皆さんは、もしかしたら、上司は反キリストだと思っているかもしれません。違いますよ。

神があなたをその会社に置いたのは、あの上司やあの雇用者、あの同僚のためではないと、どうして分かるのですか？

私ではなく、皆さんの人生で、私が実際に目にしてきたこと、色んな経験をシェアできればいいのですが。

誰かが医者で診断を受けたら、クリスチャンの所へ来て「祈って欲しい」と頼むことは興味深いですね。

私はこんな風に言うのを聞いた事があります。

「未信者の同僚や雇用者、従業員は、あなたのクリスチャン人生を見ている。

彼らはあなたの人生が、使徒パウロが手紙に書いているようなものかどうかを見ている。

彼らはあなたのクリスチャン人生を見て、自分自身に2つの質問を投げかけているのだ。

“本物か？”そして“上手くいくのか？”」

何年も前にシェアしたことがあります、私がメルセデスベンツで働いていた時のことです。

そこに、ある男性がいました。

私が確信していたのは、彼が毎朝起きて、まず頭に思い浮かべることは、「どうやって私をいじめようか、どうやって私の仕事を盗もうか、どうやって私の人生を惨めにしようか」だということ。

この男は、控えめに言っても、私の悩みの種でした。耐えられなかった。

なので、私はただ、祈ったのです。正確にどう祈ったかは言いませんが。

皆さんも、こんな風に祈ったことあるでしょう。

私はただ祈りました。

「神よ、彼が、どこか他に転職するように。私に、別の所で仕事が見つかるように。」

この時は本当に恐ろしくて、仕事に行くのが、毎日嫌でたまらなかった。

彼は私の目の前にいて、何と言うか…迫害されているようだ、そのように思っていたのです。

そしてある時、神が、私には思いつかなかった神の方法で、祈りに応えてくれました。

遂に彼は転職し、スポケーン市を離れ、シアトルに行ったのです。

「神よ、イエス様、感謝します。」 「♪ 祈りには力がある、主を讃えます ♪」

2、3年経った頃、私は町にいて、ある場所に行くつもりが、時間に遅れていました。

すると前方に車がいて、それが他の車の流れを止め、人々を分けながら私の方へやって来るのです。

「何だ？ どういうこと？」

とにかく、私はその車を避けて回り込み、その前に出ました。

そしてバックミラーを見ると、その車が私に付いて来ていて、車のライトを点滅させ、道の端に寄せるように合図しているのです。

「主よ、これはどういうことですか?!」

私の車のガソリタンクの蓋が開いているのか、上着がドアに挟まっているのか、何が起こったのかと考え、

そして道の端に止めました。

その車から降りて来たのは、他でもない、あの男だったのです。

私は神の人ですから、窓をこれくらい（数センチだけ）開けて「何の用だ…？」 「放っておいてくれ。」

「君は、この数年間、ずっと私を追ってきたのか?!」 「放っておいてくれよ！」と考えていました。

彼の頬に、涙が流れ落ちるのを見るまでは。

彼はこう言いました。

「シアトルに戻るために高速道路に入ろうとしたところで、帰る前にあなたに会えるように、もう一度祈ったのです。そうすれば、私がイエス・キリストの救いを受け入れたことを、あなたにシェアできるから…」

本当ですよ。本当に言ったんです。そうですね、拍手すべきことですね。

全ての栄光は、神に！

私は完全に彼と衝突すると思っていたので、自分の手柄に出来ないのは明らかですから。

ともかく町に戻り、翌日、彼と奥さんと私と妻とで夕食に行って、いきさつをずっと話してくれました。

私を試していて、実際、どうすれば私がキレるか毎朝考えていたんだと。

分かっていましたよ!! そうでしょうよ!

彼は、私が本物かどうか見るためにテストしていて、私はどうも合格したようです。

彼は「あなたを砕く事は出来なかった。」

「本当に?! あなたは、完全に私を砕いていましたよ! 私は完全に聖さが消え失せていたと思いますよ!」

彼は「いいえ。私はあなたを観察していたんだ。あなたたちが、流産を経験するたび…」

私たち夫婦は、短期間に続けて3回の流産を体験しました。

私の信仰が本物かどうか、信仰が働くのかを知りたくて、彼はそばで観察していたのです。

そして彼は、私にある本物の信仰が欲しい、現実に関心する私の信仰が欲しいと思ったのでした。

人々はこれを探しています。

人生にはそれが必要だから。

彼らは、あなたが本物かどうかを見たいのです。

あなたが本物で、信仰があなたの中で働いているのなら、彼らにも同じように働くということだから。

彼らにも、それが必要なのです。

これはまだ、イントロダクションですよ。ここから、今日の箇所に入っていきます。

パウロはクリスチャンの従業員や雇用者の特徴を示しています。

予め言っておきたいのですが、私は「これが、クリスチャンとしてあるべき姿だ!」のように教えたいではありません。

違います。どうか、こういった印象を持たないで下さい。

それは、私たちのあるべき姿ではありません。

私たちのあるべき姿は、『聖霊に満たされている』

このことで、私は主に、心をいつもチェックしてもらいます。

この説教台の後ろに立って、こんな事は決して言いたくないのです。

「あなたにはこれが必要だ!」「私たちはこうあるべきだ!」「もっとこうしなければ!」

そうではない。

クリスチャン従業員と雇用者の振る舞いは、職場というキャンパスに美しく描かれている、聖霊に満たされているクリスチャンの絵のようだという事。

それを理解して欲しいと思います。

聖霊に満たされている従業員や雇用者の特徴はこれです。

聖霊に満たされている従業員は、雇用者に従います。

聖霊に満たされている従業員は、雇用者を尊敬します。

聖霊に満たされている従業員は、自分の雇用者に対し真摯に向き合います。

これは正直で誠実で道徳的であり、そして人々が見ている時だけのことではないのです。

素晴らしいクリスチャンというのは、誰も見ていない時に、どんな人であるかです。

誰も見ていない時、あなたはどんな人ですか？

一人だけ、見ている方がいます。それは主です。

「でも、私がどれだけ熱心に働いているか、人に見てもらふ必要があるよ！」違います。主が見ています。

「でも、見てもらいたいんだよ！」いいえ。主が見ているのです。

ところで、あなたは誰のために働いているのですか？

あなたは人のために働いているのですか？

人を喜ばせようとしているのですか？

それとも、主を喜ばすために働いているのですか？

一日終わって帰宅した時、すごく疲れているでしょう。

それは良い疲れであっても、疲れ切っている。

結局、あなたは誰を喜ばせたのでしょうか？

あなたは人を喜ばせる人ですか？ それとも、神を喜ばせる人ですか？

私たちは木曜日の夜に、“人を恐れると罠にかかる” ことについて学びました。

あなたは罠にかかり、奴隷となることもあり得るのです。

奴隷になりたければ、人を恐れて生きれば良い。人のご機嫌伺いをすれば良い。

そうすれば、気づいた時には奴隷となっていますよ。

聖霊に満たされた従業員は、心を尽くし、力を尽くして働きます。

彼らがそのように働くのは、それを見ておられる方、主に対して行っているからです。

聖霊に満たされた雇用者にも、特徴が一つあります。

それは、従業員を脅すことはしないということ。

これは、雇用者として人々を雇っている私たちへの言葉だと思います。

これが聖霊に満たされたクリスチャンの姿ですが、私は、“何のために” ということと、その“背後にあるもの” を知ることが、もっと大切だと思います。

職場でイエス・キリストの良い証し人であるという事実、それだけが“何のために” ということであるべきで、私たちが主の良き証し人である時、主にするように心を込めて働く時、主からの報いがあるのです。

これは、クリスチャンの従業員と雇用者の両方に当てはまることです。

なぜなら、両方にとって、同じ主人が天にいるからです。

パウロが書いていることで面白いと思ったのは、神は従業員と雇用者を差別せず、また、えこひいきや不公平もしないということ。

従業員も雇用者も両方が神に対して説明責任があり、主に答えることになるのです。

雇用者は従業員よりも上の権威的立場にいますが、それは、雇用者が従業員よりも優れているという意味ではなく、雇用者の神に対する説明責任が従業員よりも少ないということでもありません。

なぜなら、両方共、天に同じ主人がいるから。

要するに、クリスチャンの従業員は、自分の環境や職場の状況に関係なく、最も熱心な、かつ最も信頼できる労働者です。

クリスチャンの雇用者も同じで、従業員がクリスチャンであるかないかに関わらず、彼らの扱いに於いて最も優れた雇用者です。

別の言い方をすると、クリスチャンの雇用者に未信者の従業員がいるのなら、言うまでもなく、逆もまた同様に、未信者の雇用者の元で働いているクリスチャン従業員もいるのです。

敢えて言わせてもらおうと、一般的に職場環境で大きな割合を占めているのは、雇用者が未信者で従業員がクリスチャン。

彼らが、クリスチャンであるあなたを見ていないと思いますか？

もしかしたら、クリスチャンだから、あなたを雇ったのかもしれませんが。

もう一度言いますが、彼らは知りたいのです。

「このクリスチャンを雇って、日曜日を休みにして欲しいならそうしよう。そしたら教会に行けるから。それで彼を観察しよう。」

私が言いたいのは、雇用者は、他の未信者の従業員よりも、あなたをよく見ているということです。

なぜなら、雇用者である彼や彼女は、未信者の従業員とは違うことをあなたに期待しているから。

あなたですよ。あなたに。

職場の未信者たちが、いつ、どのようにキリストに立ち返るのか。

未信者の雇用者が雇っている従業員の中で、クリスチャンが最も信頼でき、最も熱心な労働者であるなら、また、逆も同じく、未信者の従業員をクリスチャンの雇用者が雇い、彼らを公平に誠実に扱うなら、これが、彼らをキリストへと立ち返らせるのだと思いませんか？

つまり、あなたが未信者の従業員に対して、影響力があるとは思いませんか？

実に悲しい事ですが、私たちは職場で、人々をキリストへと立ち返らせる代わりに、キリストから離してしまうこともあり得ます。

クリスチャンの従業員や雇用者が、イエス・キリストの良い証し人ではなく、むしろ悪い証し人ならば。

これは私が経験した悲しいことですが、「クリスチャンだ」と公言することは、特定の職場環境、すなわち、全従業員の中で最も怠惰で、信頼されず、不誠実な従業員が「クリスチャンだ」と公言している職場では、良い事よりも害になることの方が多く起こります。

また、クリスチャンである雇用者が、未信者の従業員に、クリスチャンの従業員に対してでさえも、どんなメッセージを発信しているかと、その責任を思います。

箴言は、この事について十分に語っています。

怠け者は、これを遣わす者にとって、歯に酢、目に煙のようなもの。(箴言 10:26)

苦難の日に、裏切り者に抛り頼むのは、悪い歯やよろける足を頼みとするようなもの(箴言 25:19)

これは、なかなか生々しい描写ですよ。

ところで、これもまた私の経験なのですが、この状況は企業に限らず、時には、教会の中でも同じように起こり得るのです。

ヘブル 13 章 17 節 - 18 節

17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。

この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。

ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。

そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。

18 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したいと思っているからです。

誠実に仕え、環境に拘わらず立派に振る舞い、それによって報いを受けること。

その最も良い見本の一つであると、私が信じていることをお話しして終えたいと思います。

その見本とは、エジプトで奴隷であったヨセフです。

彼はそうしようと思うなら、全てに於いて弁明することができ、確かにどう考えても、自分の正当性を示すことができました。

兄たちによって殺されそうになり、奴隷として売られました。

主人の妻をレイプしようとした、という嘘の訴えによって投獄されました。

地下牢に投獄され、忘れられ、神から夢や幻を与えられた時から、それが成就し実現するまで 17 年。

この間、彼は人生や立場や運命について、憎しみを抱き、不満を持つこともできました。

しかし、その代わりにどうしたでしょう？

皆さんも聞いたことがあると思いますが、「植えられたその場所で、花を咲かせなさい」

これが、ヨセフがしたことです。

彼は主に対するように、熱心に、心を尽くして働き、ポティファルに、最終的にはパロに注目されます。

そして神が権限を与えたので、彼はエジプトでパロの次に権力のある地位へと昇進し、大きく繁栄しました。

良い見本ですね。

最後に、もう一つ話したいことがあります。これが、最後の最後です。

何年も前、主に本土での経験ですが、「真剣にミニストリーに関わりたい」と近寄って来る人々がいました。

そこで彼らと話し、一緒に祈り、話を聞くと、あることが明らかになるのです。

彼らは大抵こう言いました。

「仕事をクビになってね。これは、ミニストリーに入るようにという神の召しだと思う。」

「おお、本当に??」

私は prophet (預言者) ではありませんよ。

私は non-profit (非営利) みたいな感じですよ。

皆さんにはっきり言える事は、解雇は、ミニストリーに関わるべきだと神が示す方法ではありません。

あなたは、なぜ解雇されたのですか？

なぜ契約解除になったのですか？

あなたは、ミニストリーに関わることを、簡単で楽勝なことだと考えているのですか？

「ええ。だって、神の人々と、クリスチャンと共に働けるんですよ！」・・・!

私が誰かを雇う時はいつでも、“その話”をしなければなりません。

「もし “♪主をほめ讃えます～♪” みたいな楽観的な考えで教会の働きに就くなら、とてとてもとても、幻滅することになりますよ。あなたは分かっていないのです。」

ここには、霊的な要素もあります。

時間の関係でこれについては触れませんが、“この世の仕事”よりもミニストリーの方が楽だと想像しているなら、それは、悲しいことに思い違いです。

もう一度言いますが、それは、この世と聖さを分けていることの証拠です。
 神があなたを“この世の仕事”に置いたのですが、神がその場所で行いたい事を、あなたは過小評価しているのです。
 あなたがそこにいるのには目的があり、神はその場所で、力強くあなたを使うことができます。
 あなたが与えられたことに忠実であると見なされるなら、多くのことを求められ、あなたが小さなことに忠実であるなら、神は多くのことを任せます。

皆さんが私をこの教会の牧師として見ないように願います。
 「牧師であることは特権だ」などと言うのは簡単ですが、あなたには分からない。
 そうです。「あなたは、分かっていない。」
 あなたがミニストリーに入るという事は、信じられないような霊的戦いの最前線にいるという事なのです。
 それは実に激しくて、“この世”で経験するものとは比べ物になりません。
 これが、皆さんの助けになることを願います。

祈りましょう。
 天のお父様、みことばを本当に感謝します。
 あなたのことが、厳しいけれども真実であることに感謝します。
 みことばによって、私たちは具体的に適用することができます。
 主よ、聖霊がこのことを導き、人生に於いて、次のレベルへと引き上げて下さいますように。
 イエスの御名によって。
 アーメン。

.....

「きょう、もし御声を聞かざらば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi